

モバイルビジネス研究会 プレゼンテーション資料

第9回 モバイルビジネス研究会

平成19年8月29日

イー・モバイル株式会社



接続料金が高い

MVNOの参入の遅れ

垂直統合モデル
(プラットフォーム)

日本の携帯電話の通話料金は

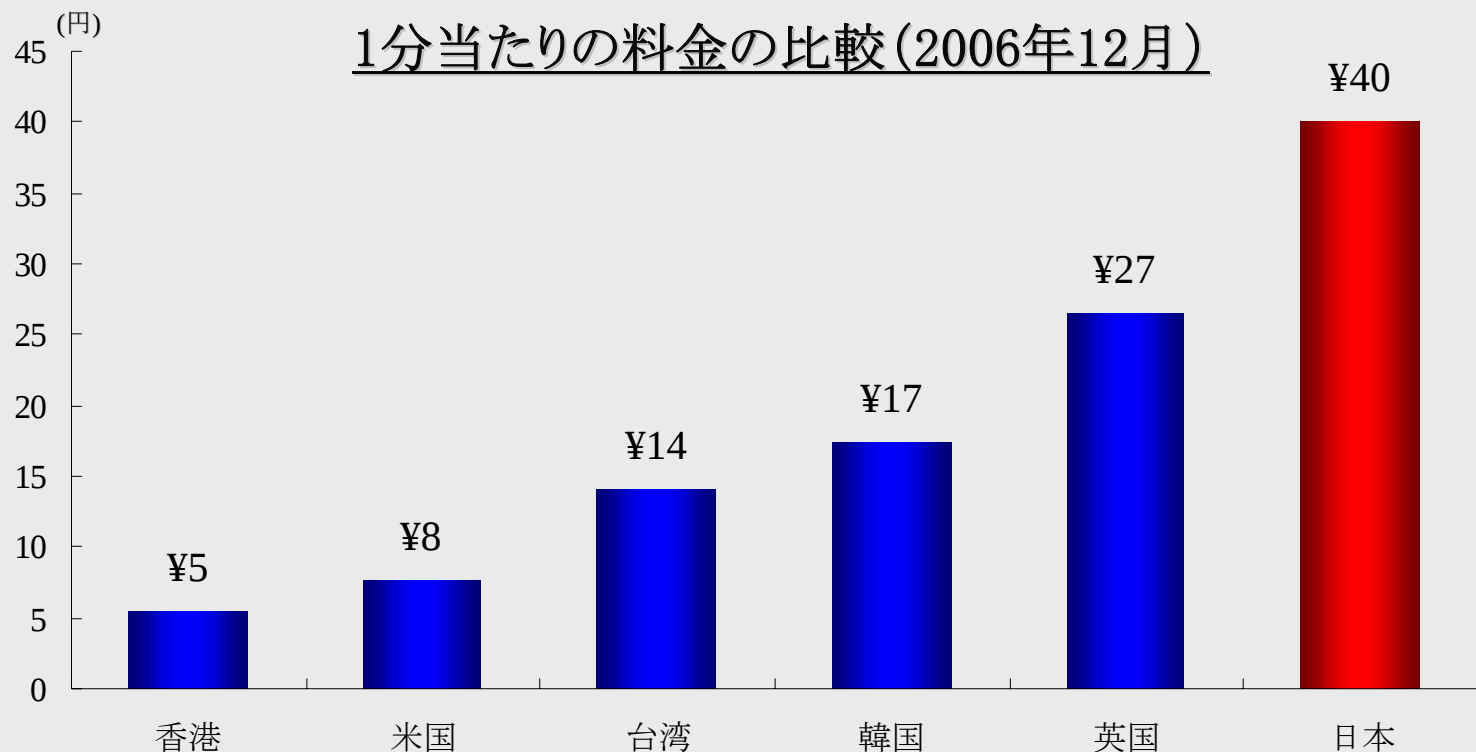
まだまだ **高い!**

周波数割当

過大な端末販売奨励金

SIMロック

日本の携帯電話の通話料金は、国際的にも高い。



出典: 証券会社レポート

注) 料金 = ARPU / 通話時間で算出したもの

日本の通話料金は変わらず、通信時間は減少傾向。

日本

通話料金(1分)
(携帯間)

1998

40円

横ばい

2007

40円※1

通信時間
(MOU)※2

1998

155分

減少

2007 1Q

140分

※1) 出典: 総務省資料、au/SBMの料金 (NTTドコモ: 36円) ※2) 1998: NTTドコモの発表値、20071Q: NTTドコモとauの発表値を平均化

米国は、収入の低下に相応して、通信時間が上昇。

米国

平均収入
(1分あたり)

1998

\$ 0.29

低下

2005

\$ 0.07

通信時間
(MOU)

1998

136分

上昇

2005 4Q

820分

出典: FCC Competition Reports

1

支配的事業者の接続料金の適正化

2

MVNOの推進

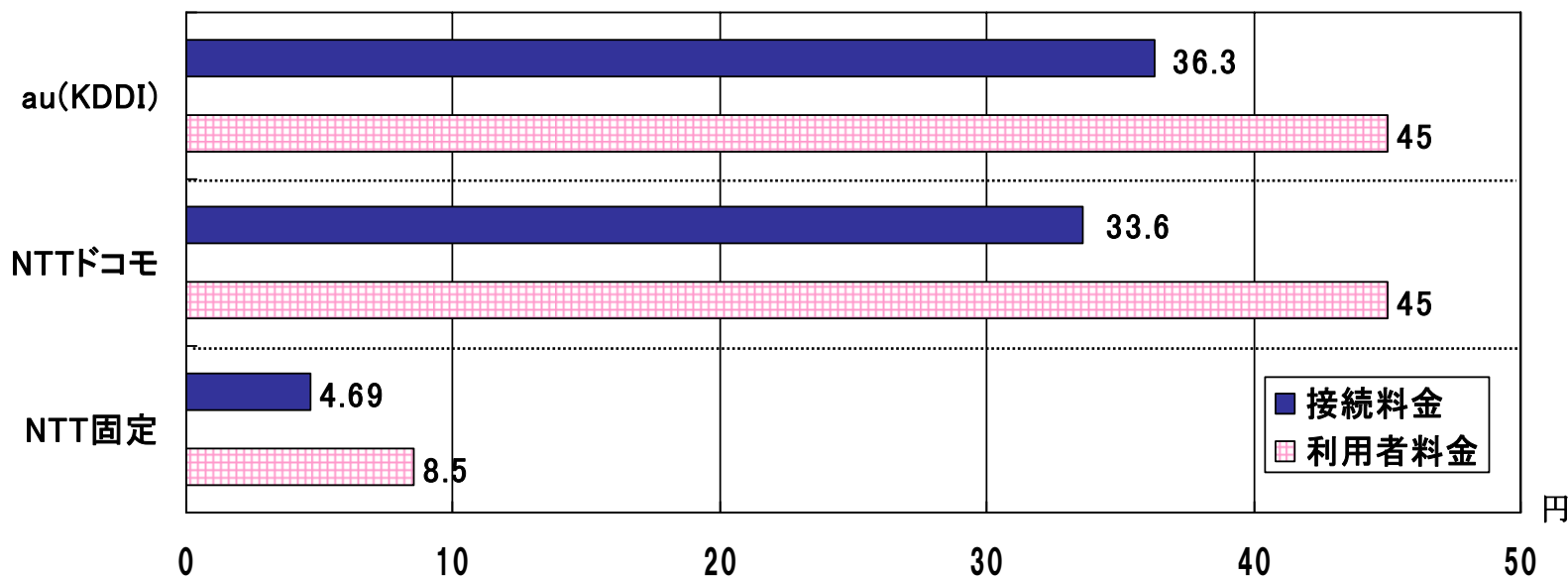
3

プラットフォーム機能のオープン化・共通化

1. 支配的事業者の接続料金の適正化(1)

モバイルの接続料金は、低廉化が必要。

音声通話: 接続料金とユーザ料金の比較(3分)

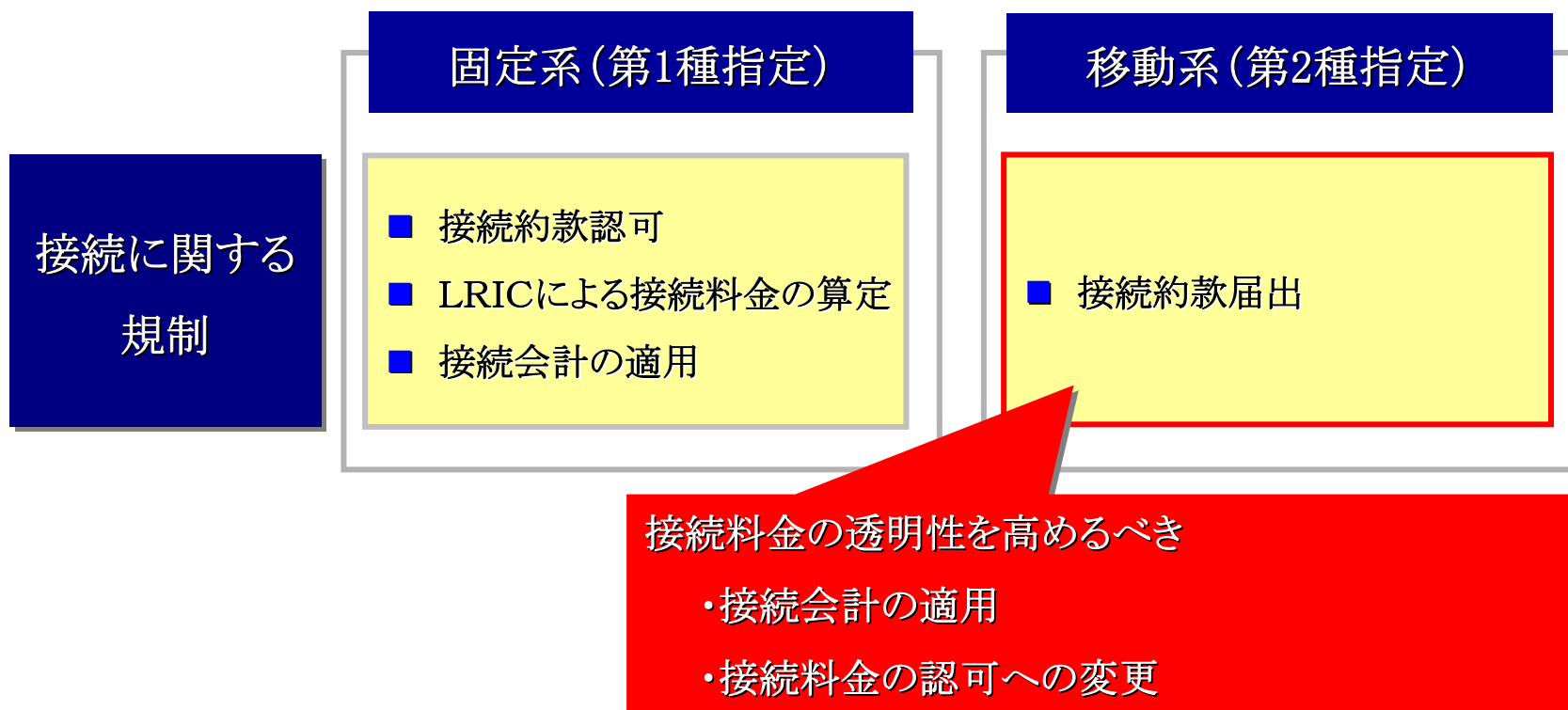


- ・接続料金: NTTドコモ⇒平均接続料金 (NTTドコモ発表資料) 、au (KDDI) ⇒NTTドコモの接続料金を参考に算出
- ・ユーザ料金: NTTドコモ⇒タイプLL 、KDDI (au) ⇒プランLL
- ・NTT接続料金: GC接続

接続料金の低廉化は、利用者料金の低廉化を促進させる。

1. 支配的事業者の接続料金の適正化(2)

① NTT東西同様に、適正性チェックスキームを導入すべき。

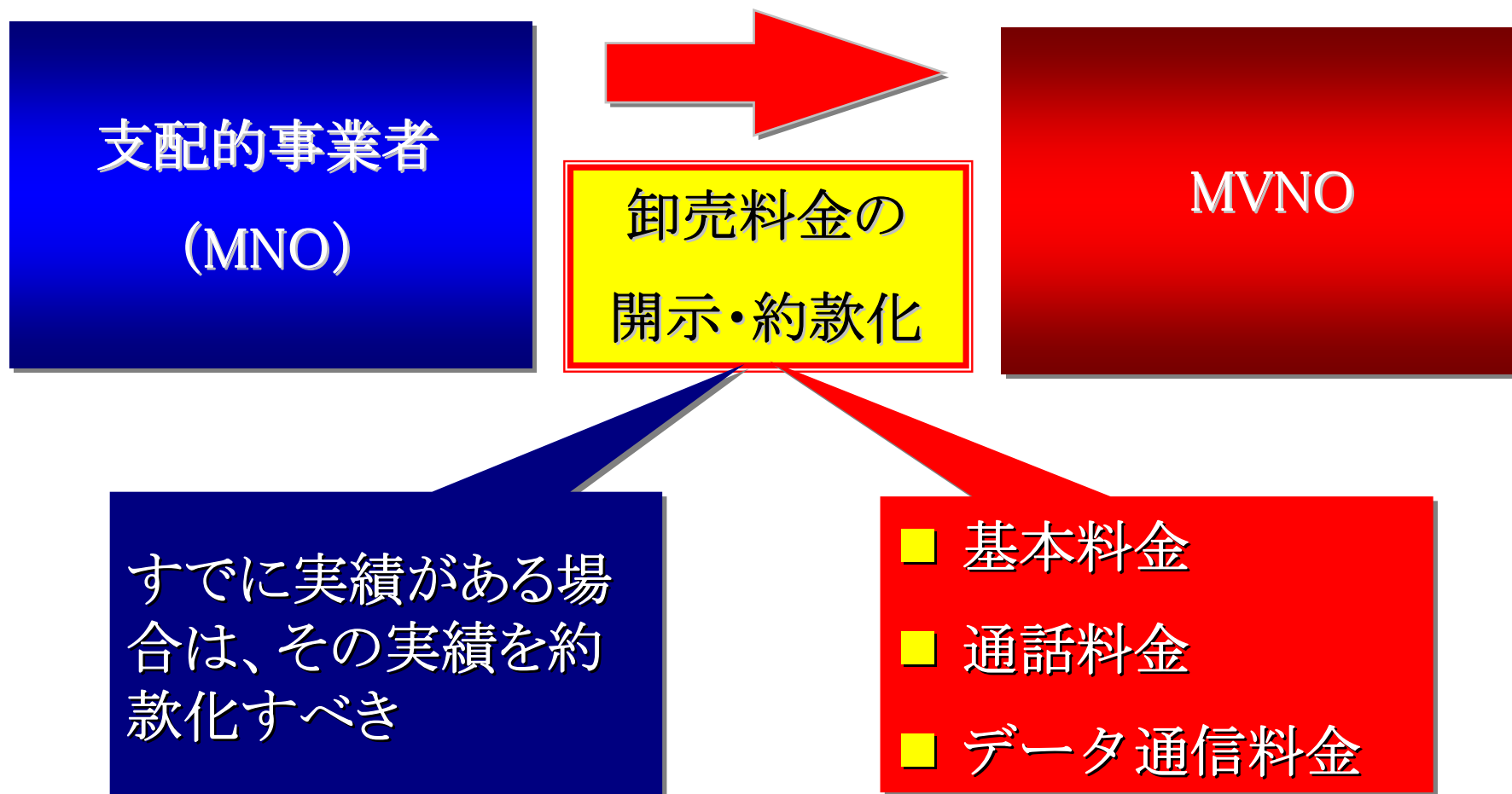


② 端末販売奨励金の取扱い⇒

会計上で明確にし、接続料金に含めないとする報告書(案)に賛成。
あわせて、端末開発及びコンテンツ開発費用の取扱いも明確にすべき。

2. MVNOの推進(1)

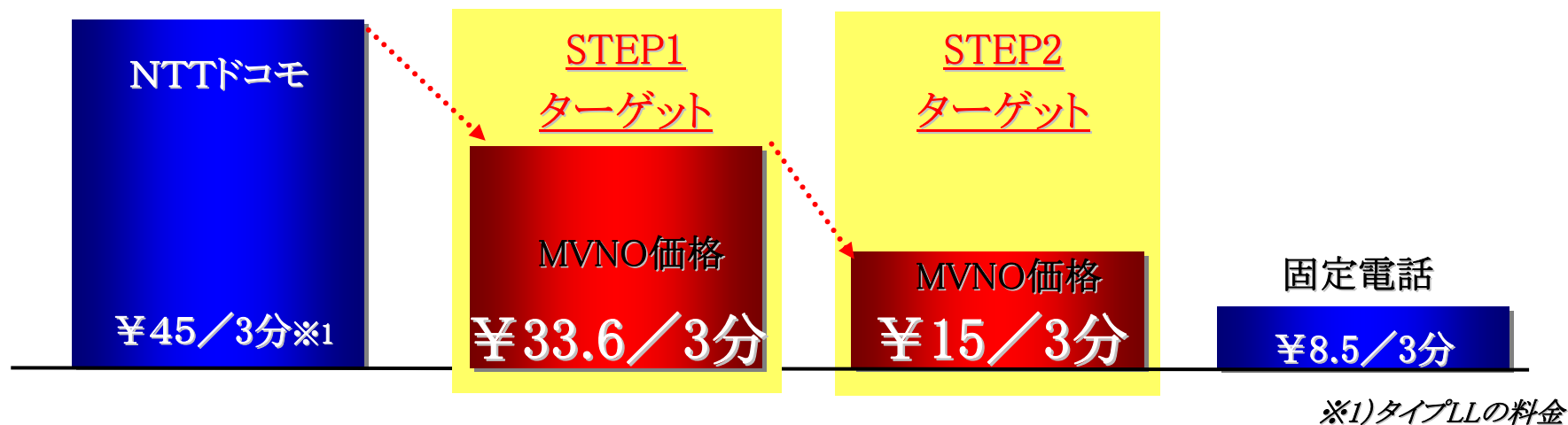
支配的事業者には、提供条件のオープン化を義務化すべき。



2. MVNOの推進(2)

支配的事業者は、低廉なMVNO向け卸売料金を設定すべき。

通話料金部分の水準



料金設定の進め方(案)

STEP1

接続料金と同水準の料金設定 ⇒ ¥33.6/3分※2

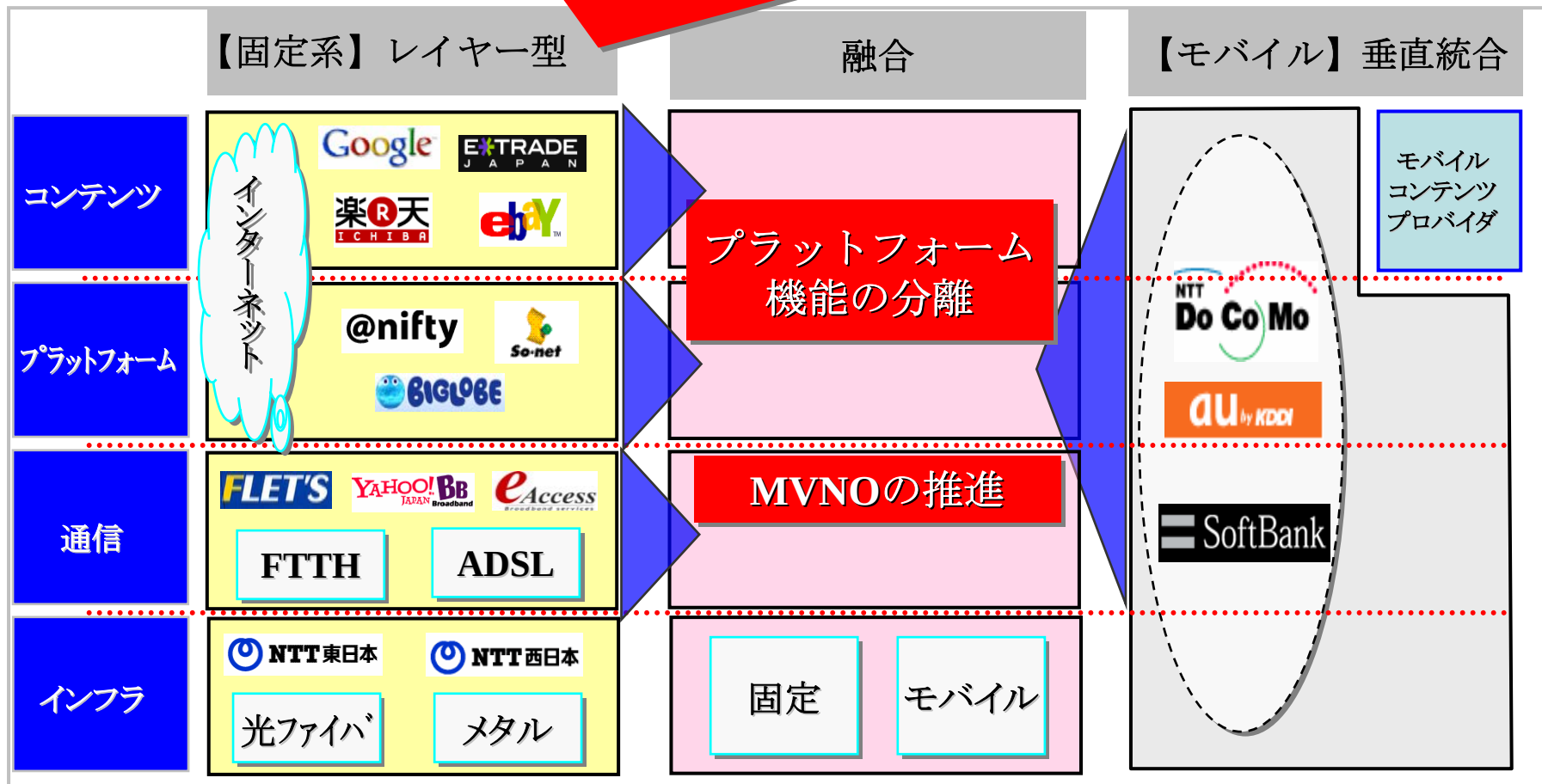
STEP2

接続料金の低廉化 ⇒ ¥15/3分を実現

※2) NTTドコモの平均接続料金 (NTTドコモ発表資料より)

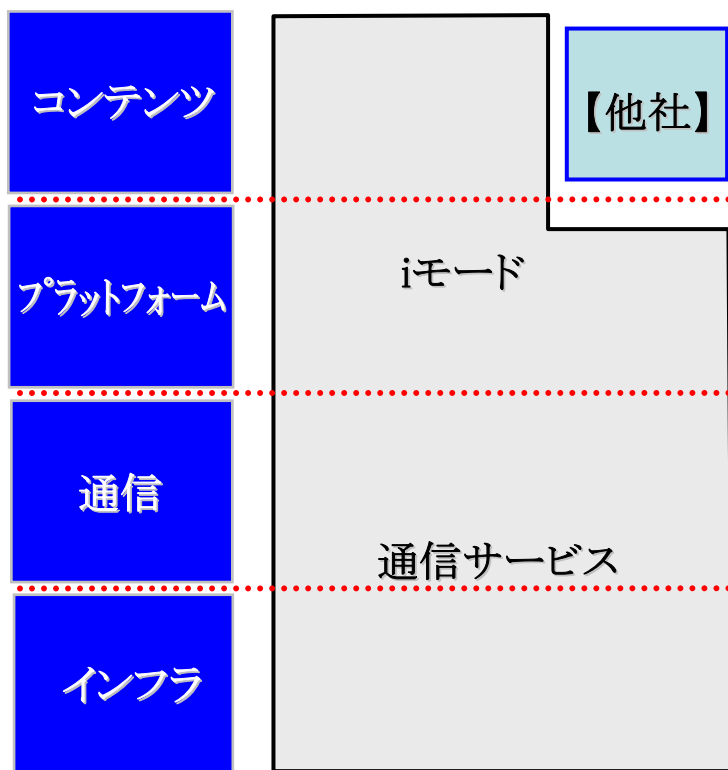
水平分業モデルを促進させ、新しい市場を創出すべき。

多様なプレイヤーによる多様なサービスが進展

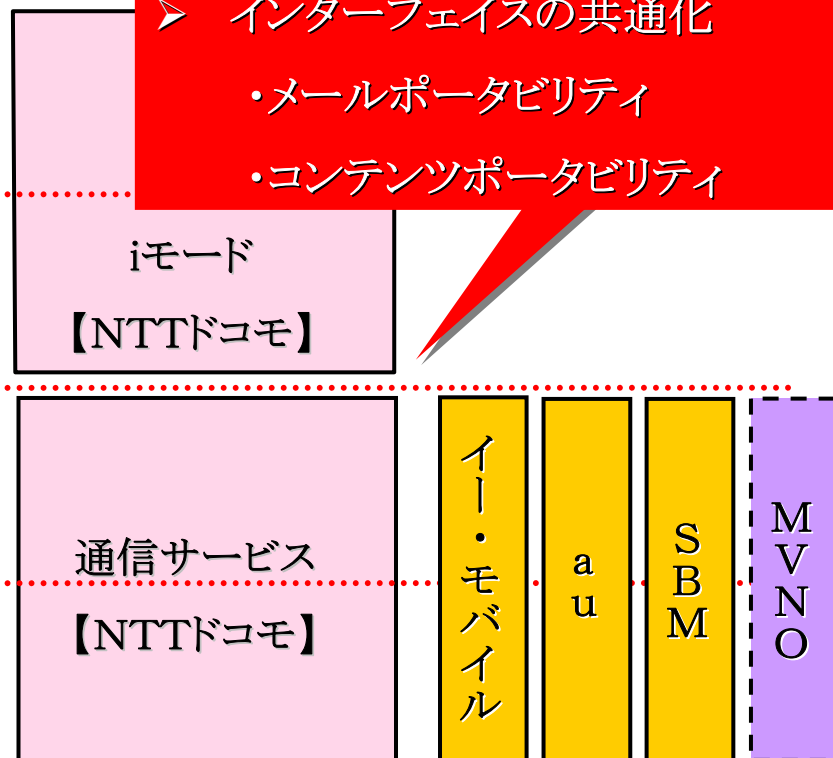


支配的事業者は、プラットフォーム機能の共通化を実現すべき。

【NTTドコモ：共通化イメージ】



- インターフェイスのオープン化
- インターフェイスの共通化
 - ・メールポータビリティ
 - ・コンテンツポータビリティ



ただし、NTTグループ内のOCN等との連携は行うべきでない。

その他 1. 周波数割当

周波数割当は、事業者に対して公平であるべき。

【周波数割当状況】

	800MHz	1.5Ghz	1.7Ghz	1.9Ghz	2GHz(FDD)	2GHz(TDD)	Total
NTTドコモ	58	11	10	0	40	0	119
au (KDDI)	30	20	0	0	30	0	80
ソフトバンクモバイル	0	23	0	0	40	0	63
PHS	0	0	0	26	0	0	26
IPモバイル	0	0	0	0	0	15	15
イー・モバイル	0	0	10	0	0	0	10
Total	88	54	20	26	110	15	313

2. 5GHzの新規割当は、モバイルブロードバンドの将来を見据えながら、公平かつ透明に行うべき。

過大な端末販売奨励金は、デメリットが大きい。



SIMロック解除の法制化は、実現すべき。

支配的事業者は、ネットワークのオープン化をはかるべき。

物理層への
規制

固定系(第1種指定)

- コロケーション
- バックボーン
(中継ダークファイバ)
- 加入ダークファイバ
- 自前工事
- ドライカップ
- 加入ダークファイバ

移動系(第2種指定)

- なし

新たに検討が必要なルール

- ・鉄塔の共用(接続約款化)
- ・バックボーンのアンバンドル(接続約款化)

利用者料金の低廉化を実現するために、支配的事業者に対して、3つの施策を進めるべき。

接続料金の低廉化

MVNO料金の低廉化

プラットフォーム機能のオープン化・共通化

今後の周波数割当については、事業者間の公平性を確保すべき。